

## 第5分科会

### ヤマガタ×世界つながる会議～ユネスコ創造都市ネットワークの取り組み～

●担当：三上英司（山形大学 地域教育文化学部教授）、小林みずほ（山形市文化振興課 創造都市推進係）、三澤香織（JICA 山形デスク）



●協力者：大川尋子（鶴岡市 食文化創造都市推進課）、ディーン・ブレイ（山形市国際交流員）、長澤パティ明寿（山形県立山形東高等学校）


●分科会の狙い・目的：

- 1) 文化を通し都市間の連携をすることにより、都市の活性化と文化多様性の理解を図る「ユネスコ創造都市ネットワーク」を紹介する。また、山形県で加盟している鶴岡市と山形市の取り組みを通して、世界の都市との連携事例を知る。
- 2) 「山形にある文化資産と魅力」を考えるワークショップを行い、国際的に生かせる「山形」のブランド力をブレインストーミングし、「創造分野（7つの分野より、映画と食）」を軸にその資産をどう広めていけるかを考える。

●参加者：24名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
アイスブレイク	<p>自己紹介 A4紙を4等分に折り、所属／氏名／気になっている・興味のある都市・国名／その理由を記入し、自己紹介をした。担当者、協力者、ボランティアが例として自己紹介をしたあと、4グループに分かれグループごとに自己紹介を行い、お互いの海外への関心を分かち合った。4等分にしたカードは立てて名札にした。</p> 
ワークショップ 進行 小林みずほ	<p>【ユネスコ創造都市を知ろう！ゲーム】 カードを各グループに配布（カード表：都市名、裏：国名）し、グループ内で順番に、国が分かるカードを選んで当て、カード数を競うゲームを行った。2グループは映画都市、2グループは食文化都市（18都市ずつ）の都市名カードに取り組んだ。 全グループが終わったところで、当てたカード数と感想を聞いたところ、全部の都市名の国を当てられた人はだれもおらず、国がなかなかあてられなかった、思った以上に難しかったという人が大多数だった。司会進行より、他の都市名がなかなかわからなかったように、“山形”も世界の中では知らない人の方が多い都市ということを補足した。</p>
創造都市 ネットワークとは？ ユネスコ創造都市 ネットワークの説明： 長澤パティ明寿	<p>① 「ユネスコ創造都市ネットワーク」についての説明 グローバル化の進展により各地の固有文化の消失が危惧されており、文化の多様性を保護するとともに、世界各地の文化産業が潜在的に有している様々な可能性を、都市間の戦略的な連携によって最大限に発揮させるための枠組みとして、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が2004年（平成16年）に創設したことについて説明した。</p> 

<p>鶴岡市の取り組み： 大川尋子（鶴岡市）</p> <p>山形市の取り組み： 小林みずほ （山形市）</p>	<p>② 鶴岡市のユネスコ創造都市ネットワークの取り組みについての紹介 鶴岡市は食文化分野で登録されており、地域の固有の文化を守りつつ世界をまたいだ複数の地域を一つにつなげるプラットフォームとして、創造都市事業に取り組んでいることを紹介した。</p> <p>③ 山形市のユネスコ創造都市ネットワーク取り組みについての紹介 山形市が映画分野で登録されることの背景として、ドキュメンタリー映画祭の存在、まちの賑わいづくりとしての山形市の政策としての位置づけと、市民のアクションが創造都市のカギだったことを紹介した。</p>
<p>山形の資産を、世界の都市とつなげるアイデア会議</p> <p>ファシリテーター 小林みずほ（山形市文化振興課）</p> <p>ディーン・ブレイ（山形市国際交流員）</p> <p>大川尋子（鶴岡市食文化創造都市推進課）</p> <p>長澤パティ明寿（山形県立山形東高等学校）</p>	<p>①グループごとに「山形で魅力的なもの、大切にしたいもの、資産」を挙げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山形で魅力的なもの、大切にしたいもの」についてブレインストーミング</li> <li>・選んだ魅力にどんな魅力があるのか、できるだけたくさん上げる</li> <li>・文化のキーワードを足し、どんな可能性があるか、どのように広めることができるかを参加者に考えて貰う</li> </ul> <p>②ワールドカフェ形式(グループ毎に残って発表する人、他のグループの発表を聞く人に分かれてもらう)で、各グループの発表を聞く</p> <p>グループ1「山形の自然を、映画を通してどう広めるか」 海外の人に知ってもらう工夫をする。いなかであることをPR。自然のPVを作る。樹氷や雪山にプロジェクションマッピングをするなど、自然とのコラボ。大自然の中で映画上映する、環境問題につなげる。</p> <p>グループ2「山形のラーメンをどう広めるか」 季節ごとのラーメンをPR、アプリで検索しやすいようにする。樹氷を見ながらラーメンを食べるなど山形市の観光資源とも連携をしたラーメンを開発する。</p> <p>グループ3「文化施設（加茂水族館）と食文化をどう広めるか」 駐車場の前で、ラーメンフェスをする。琴平荘のラーメンを水族館で食べられるようにする。クラゲをみながらティータイム。山形の果物だけを使ったアイスだけを置く、クラゲと哲学をする。クラゲドームをバックに、花笠踊りを披露する。</p> <p>グループ4「山形の方言を、ユネスコ創造都市ネットワークの7つの分野を用いて、どう広めていくか」 方言辞典をつくる、映画で方言講座、方言の歌、方言Tシャツやかるた、方言ニュース天気予報や方言の変換ソフトを作る。7つの分野を用いて、その地域特有で、文化の証でもある方言を広めていく。</p>  <p>山形市の事例として、世界には映像の届かない開発途上地域に映像を届けるため、インドネシアのパプア州で山形市の短編映画を上映したことから、高校生同士のスカイプを通じた映像交流がはじまり、パプア州だけでなく、韓国のプサン市等他都市との交流をはじめている事例を、一参加者である高校生に発表していただいた。</p> <p>鶴岡市は、具体的にどんなことを行っているか事例を紹介。市民講座による食文化の継承や、料理人養成に力を入れていること、また、自治体間の横のつながりが薄かったことから、ベストプラクティスの共有や課題解決のため、全国規模の研究会を立ち上げた現在の状況等を紹介した。</p>

<p>ふりかえり</p> <p>総評： 三上英司（山形大学 地域教育文化学部教 授）</p>	<p>【総評（山形大学 三上英司教授より）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化とは、時間と距離が短くなること。今まで時間のかかった移動やコミュニケーションが短期間で行えるようになるが、他の文化が一気に流れ込むことで、個性がなくなってしまうという側面もある。</li> <li>・グローバル化の視点で考えると、鶴岡市・山形市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟したということは、様々な文化資産を持っていたからというよりもむしろ、文化資産はそれぞれの都市が持っている中で、加盟するために山形の良さを見直し、資産を洗い出した、ということである。</li> <li>・ワークショップの中で行った「あなたは山形の何が好き？」という、あなただけの山形（山形の個性）を、自信を持って言えることが、国際交流につながる。本日ブレインストーミングをした「あなたにとっての山形の魅力、山形で大切にしたいものは何ですか？」という問いの答えをそれぞれが持ち帰って、自分が好きなものを大切にしてほしい。</li> </ul>
--	--

## 2. 使用した教材や参考資料

ユネスコ創造都市やまがた（山形市創造都市推進協議会）

<https://www.creative-yamagata.jp/>

ユネスコ食文化創造都市鶴岡（鶴岡市食文化都市推進協議会）

<http://www.creative-tsuruoka.jp/>

ユネスコ創造都市ネットワークについて（文部科学省）

<https://www.mext.go.jp/unesco/006/1357231.htm>

UNESCO Creative Cities Network

<https://en.unesco.org/creative-cities/home>

## 3. 参加者アンケート

参加者のご所属などについて(N=24)

教職員 (小・中・高・ 大学)	公務員	国際協力 交流団体	民間企業	中学生	高校生	大学生	その他
0	4	2	1	0	14	2	1

参加者の年代について(N=24)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
14	3	2	2	1	2

参加者のこれまでのフォーラム参加回数について(N=24)

初めて	2回目	3回目	4回以上
20	1	1	2

参加者の分科会への満足度について(N=23)

大変満足	満足	普通	あまり満足 できなかった	不満足
17	5	0	1	0

#### 4. 担当者所感

【ファシリテーター：小林みずほ】

【よかった点】

・ユネスコの取り組みの一つとしての創造都市ネットワークに、山形県から鶴岡市と山形市が加盟していること、地方自治体の政策が身近なプロジェクトや活動につながりうることを紹介できた。国際分野でも「ユネスコ創造都市ネットワーク」は知られていないため、この枠組み自体を知っていただくいい機会となった。

・参加者の半数以上が高校生で、山形市の創造都市事業の協力者で現役高校生である長澤パティ氏の実践例と発表が、若い世代のモチベーションをあげてくれた。参加者にこれから更に自分の地域を誇りに思い、国際交流や山形のまちづくりにも積極的にかかわっていただきたい。

・高校生のランチセッションでも、ユネスコ創造都市に関する取り組み発表があり、この分科会と連動することができた。

・山大教授、JICAデスク、国際交流員など、様々な方のご意見を聞いて進めた準備の過程があり、初めての分科会の枠組みを深めていくことができた。

【改善点】

・世界の各都市につなげるまではたどり着くのが難しかった。目的を絞り、グループワークのテーマ設定とファシリテーションの方法を改善することで、より充実した分科会になったように思う。グループワークについては「ぼんやりとしていない」ルールと問いかけを作り、どんな意見を出してもいいというファシリテーションを展開できるようにしていきたい。